

# 野崎交配 **ちっチャイ菜の栽培方法**

## 【育苗期】

播種: 8月下旬～9月下旬まき→10月中旬～1月中旬収穫  
(露地栽培)

1月中旬～3月中旬まき→4月中旬～5月下旬収穫  
(温床育苗, ハウス・トンネル栽培)

トレイ: 72穴, 128穴プラグトレイ使用



## 注意点

- ・育苗時は徒長しやすいため、水をやり過ぎず強健な苗作りを心掛けて下さい。肥料切れにならない程度に液肥を利用して下さい。
- ・播種直後の遮光ネットは有効ですが、長期間の利用は徒長の原因になるので取り外し時期にご注意下さい。
- ・病害虫に対して必要であれば殺虫剤や殺菌剤を使用して防除してください。

## 【定植】

条 : 並列3～4条

条間: 20cm前後, 株間: 20cm前後

播種してから約3週間後、本葉5～6枚になったら定植して下さい。植え付けた後はたっぷり灌水して下さい。



## 【栽培期】

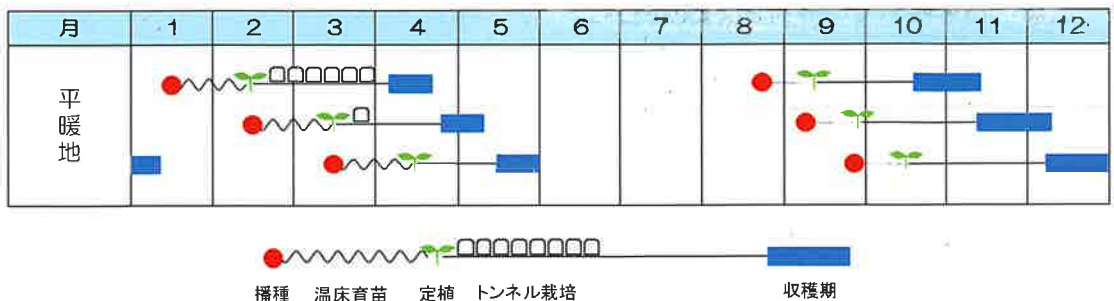
定植してから約2週間後に追肥・除草を行います。

害虫ではコナガ、ヨトウ類、ハイマダラノメイガ、アブラムシ、ナメクジ等に注意して下さい。病気では白さび病、軟腐病、べと病に注意が必要で、発病前から予防的に薬剤を使用して下さい。

## 栽培上の注意点

- ・栽培中土壌が乾燥すると、石灰欠乏症が出る場合があるので、適宜灌水を行い、適度な土壌水分を保つように心掛けて下さい。
- ・肥料のやり過ぎは石灰欠乏症やホウ素欠乏症などの原因になりますので、適切な施肥管理を行い、徐々に生育させるような栽培をお願いします。生育期間中の急激な生育進行が原因となる生理障害の発生を避けるようにして下さい。
- ・農薬を使用する場合、ちっチャイ菜は非結球あぶらな科葉菜類のさんとうさいの部類に所属しますので、登録のある農薬をご使用下さい。

## ちっチャイ菜作型表





# ちっチャイ菜の春まき栽培

## 白菜の花芽分化

ちっチャイ菜は白菜の仲間で発芽直後の種子から低温(3~13℃)に感応して花芽が形成されるという特性があります。平均気温14℃~15℃以下、最低気温10℃以下の低温に10日以上遭遇すると花芽分化します。その後やや高温(15℃~20℃)にあうと花芽分化した花茎が伸びて抽苔します。春まき栽培の場合、育苗期間中に葉枚数を確保しておく事が重要です。

## ちっチャイ菜の春まき栽培方法

### 【播種・育苗】

- 播種は72穴程度のプラグトレイを使用します。
- 育苗は電熱線や電熱マットを利用した温床で行い、**最低気温が14℃以上**、日平均気温が15℃以上になるようにして下さい。
- 夜間は温床に保温用ビニールなどを被覆し、昼間は換気をして、**14℃~25℃**を保つようにして下さい。
- **水のやり過ぎ**に注意して、**徒長しないよう**強健な苗作りを心掛けて下さい。
- 播種後約1カ月で**本葉6~7枚**に仕上げして下さい。
- 定植の1週間くらい前から熱源を切り、徐々に外条件に慣らします。

春まき栽培で最も重要なのは育苗時の温度管理です。育苗期間中に結球に必要な葉枚数を分化させて、できるだけ早期に抽苔させないようにしましょう。



### 【畑の準備と定植】

- 施肥体系や条間・株間は夏まき栽培と同様に設定して下さい。
- 定植後は十分に灌水し、**ハウス栽培**あるいはビニールによる**トンネル被覆栽培**します。
- 定植後3週間くらいはトンネルを密閉して順調な活着を促します。



### 【追肥・中耕・除草】

- 定植後、3~4週間したら**追肥**を行います。
- ビニールを外し、肥料を施すとともに



### 【生育中の管理】

- 春まき栽培では気温の上昇や下降、土壤の乾燥や過湿など条件が変化しやすく、**高温障害**や**生理障害**の原因となるの適度な気温や土壤水分を保つように心掛け、生育期間中の急激な生育進行を避けるようにして下さい。
- 日差しが強くなったり高温になり過ぎると葉が焼けたりするので、日中温度が上がる際にはビニールの横部をめぐって徐々に**換気**を強めていきます。
- 3月下旬頃になったらビニールを除去します。

### 【病虫害対策】

- 肥料が多くて軟弱に生育したり風通しが悪い条件では**軟腐病**や**べと病**などが発生しやすいので、**予防的**に薬剤散布するとよいでしょう。
- 害虫はアブラムシ、コナガ、ヨトウムシなどに対して注意が必要で、早めに**薬剤防除**を行って下さい。